

平成29年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年6月9日

上場会社名 株式会社エイチーム 上場取引所 東
 コード番号 3662 URL http://www.a-tm.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 高生
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 社長室長 (氏名) 光岡 昭典 TEL 052-747-5573
 四半期報告書提出予定日 平成29年6月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年7月期第3四半期の連結業績（平成28年8月1日～平成29年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年7月期第3四半期	25,190	55.4	2,770	89.2	2,809	106.9	1,838	133.2
28年7月期第3四半期	16,210	43.9	1,464	△10.9	1,358	△20.6	788	△27.2

(注) 包括利益 29年7月期第3四半期 1,836百万円 (133.0%) 28年7月期第3四半期 788百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年7月期第3四半期	97.27	96.81
28年7月期第3四半期	41.86	41.63

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年7月期第3四半期	12,139	6,718	54.5
28年7月期	9,586	5,072	51.9

(参考) 自己資本 29年7月期第3四半期 6,618百万円 28年7月期 4,971百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年7月期	—	5.00	—	7.50	12.50
29年7月期	—	5.00	—		
29年7月期(予想)				22.00	27.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 平成29年7月期の連結業績予想（平成28年8月1日～平成29年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	34,000	48.0	3,800	71.7	3,830	82.8	2,500	93.4	132.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名） 、除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年7月期3Q	19,462,000株	28年7月期	19,450,000株
② 期末自己株式数	29年7月期3Q	548,662株	28年7月期	574,020株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年7月期3Q	18,901,178株	28年7月期3Q	19,359,158株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期累計機関における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

国内のインターネットを取り巻く市場は、インターネットの利用者数が平成27年末時点で推計1億46万人、インターネット利用者の割合は前年と同じ83.0%となりました（総務省の平成27年「通信利用動向調査」平成28年7月公表）。

モバイルビジネスを取り巻く環境につきましては、平成28年3月末時点のスマートフォン契約数が7,715万件（端末契約数の59.9%）となり、スマートフォン契約数は2018年度に1億件に達する見通しであります（MM総研「2016年度上期 携帯電話端末出荷と契約数の推移・予測」平成28年11月公表）。

このような状況の下、当社グループでは、平成28年8月より、EC事業をライフスタイルサポート事業から切り出し、単独セグメント化しております。これにより、当社グループの事業セグメントは「エンターテインメント事業」、「ライフスタイルサポート事業」、「EC事業」の3つになります。

エンターテインメント事業では継続して新規スマートデバイス向けゲーム開発に取り組みながら、既存ゲームの機動的な運用及び積極的な海外展開を進め、過去最高のセグメント売上・利益を達成いたしました。

ライフスタイルサポート事業では各サービスのユーザビリティの向上等更なる充実に注力し、それぞれの産業領域におけるマーケットシェアの拡大及び安定的な成長に向けて取り組み、過去最高のセグメント・利益売上を達成いたしました。

EC事業では中長期目標に沿って引き続きフルフィルメント（注）の強化に取り組んでまいりました。その結果、当社グループは当第3四半期連結会計期間において過去最高の四半期売上・利益を達成いたし、売上・利益ともに前年同四半期比で大幅に増加いたしました。

（注）フルフィルメントとは、ネット通販における受注管理、在庫管理、ピッキング、商品仕分け・梱包、発送、代金請求・決済処理等、通販ビジネスで最も重要なコアプロセス全般を指します。また、苦情処理・問い合わせ対応、返品・交換対応等のカスタマーサポートや顧客データ管理等の周辺業務も含まれます。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は25,190,382千円（前年同四半期比55.4%増）、営業利益は2,770,915千円（前年同四半期比89.2%増）、経常利益は2,809,512千円（前年同四半期比106.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,838,456千円（前年同四半期比133.2%増）となりました。

当連結会計年度におけるセグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

<エンターテインメント事業>

エンターテインメント事業では、主にスマートデバイス（スマートフォン及びタブレット端末）向けゲームやツールアプリの企画・開発・運営を行っております。

ゲームアプリにつきましては、既存ゲームにおいて、平成26年12月にリリースした「ユニゾンリーグ（Unison League）」（新感覚リアルタイムRPG）及び平成28年6月にリリースした「ヴァルキリーコネクト（Valkyrie Connect）」（至高のハイファンタジーRPG）が国内外ともに好調に推移し、エンターテインメント事業は、過去最高のセグメント売上・利益を達成いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は14,177,117千円（前年同四半期比62.9%増）、セグメント利益は2,549,851千円（前年同四半期比60.3%増）となりました。

<ライフスタイルサポート事業>

ライフスタイルサポート事業では、ライフイベントや日常生活に密着した比較サイト・情報サイト等、有益な情報を提供する様々な便利なウェブサービスの企画・開発・運営を行っております。

主要サブセグメント事業となる引越し関連事業、自動車関連事業、ブライダル関連事業、金融メディア事業は日々のサイトの改善、プロモーション活動などにより培ったノウハウやブランディング戦略が奏功し、さらに繁忙期需要増がけん引役となり、順調に利用者を増やし、総じて過去最高の売上を達成いたしました。

「引越し侍」で知られている引越し関連事業及び「ナビクル」を中心とする自動車関連事業は継続して業界トップシェアを維持しております。「ハナユメ」を中心としたブライダル関連事業は、全国6エリアに12店舗のウェディングデスクを展開し、「ハナユメ定額ウェディング」や「ハナユメフォト」等のブライダル周辺サービスを拡充しながら、サービスの品質向上に努め、順調に利用者を増やしております。「ナビナビキャッシング」を中心とする金融メディア事業は同業他社と競争が激化する中、引き続き利用者数を伸ばしております。このようにライフスタイルサポート事業は安定的かつ継続的な収益向上に取り組み、過去最高のセグメント売上・利益を達成いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は9,596,128千円（前年同四半期比43.7%増）、セグメント利益は1,412,724千円（前年同四半期比16.6%増）となりました。

<EC事業>

EC事業では、大型商材のEC化に本格参入し、自転車通販サイト「cyma-サイマー」の運営を行っております。

EC事業においては、ウェブサイトのユーザビリティの向上等を進めながら、引き続きフルフィルメントの強化に注力しており、事業規模が順調に拡大し、売上高が前年同四半期比で大幅に増加いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,417,135千円（前年同四半期比71.0%増）、セグメント損失は146,124千円（前年同四半期は129,132千円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は12,139,713千円となり、前連結会計年度に比べ2,552,713千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加910,420千円及び受取手形及び売掛金の増加1,173,042千円によるものであります。

② 負債

当第3四半期連結会計期間末における負債は5,420,843千円となり、前連結会計年度に比べ905,852千円増加いたしました。これは主に、短期借入金の減少338,000千円があったものの、買掛金の増加221,723千円、未払金の増加550,078千円及び未払法人税等の増加274,152千円によるものであります。

③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は6,718,869千円となり、前連結会計年度に比べ1,646,860千円増加いたしました。これは主に、利益剰余金の増加1,602,362千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは中長期的な成長に向け、平成29年7月期において人材獲得・人材育成及び環境整備・組織体制の構築に注力してまいりました。これに伴い、人員の増加を見据え、本社オフィス及び大阪オフィスの増床ならびに企業認知度向上のためのプロモーション等を実施してまいりましたが、最近の業績の動向等を踏まえ、平成28年9月9日に公表いたしました平成29年7月期通期連結業績予想及び期末配当予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

セグメント別業績の見通しは次のとおりであります。

エンターテインメント事業におきまして、平成28年6月にリリースした至高のハイファンタジーRPG「ヴァルキリーコネクト」、平成26年12月にリリースした新感覚リアルタイムRPG「ユニゾンリーグ」等の既存タイトルが好調に推移し、売上・利益ともに計画を上回る推移となりました。しかし、平成29年12月にリリースした覚醒少女バトルRPG「放課後ガールズトライブ」が低調につき、売上が期初計画を下回り、広告宣伝費が一部未消化となりました。結果、エンターテインメント事業の売上はほぼ予想通り、営業利益は期初予想を大幅に上回る着地となる見込みであります。

ライフスタイルサポート事業については、売上・利益ともに期初予想を大幅に上回る見通しであります。サブセグメント事業別では、引越し関連・自動車関連・金融メディアが予想を上回る推移となりました。

EC事業については、売上は期初予想を上回る着地となる見込みであります。広告投資等の費用が期初計画をやや上回り、営業利益は期初予想をやや下回る着地となる見込みであります。

また、全社共通部門において、期初計画の費用が一部未消化となり、全体として売上・営業利益ともに期初予想を上回る推移となりました。

経常利益については、期初予想では為替差損を見込んでおりましたが、為替差益に転じる見込みであります。これは主にエンターテインメント事業の海外売上によるものであります。

親会社株主に帰属する当期純利益は、当第3四半期までの実績に基づき、予想数値を算出しております。

以上を踏まえ、平成29年7月期通期連結業績予想数値を上記の通り修正いたしました。

なお、通期連結業績につきましては、エンターテインメント事業の売上・利益を予測することが困難なことなど、事前に予測不可能な内外的要因等の不確定要素により、信憑性の高い業績予想数値を算出することが極めて困難であり、依然として変動要因が存在すると推測しております。今後、業績見通しが予想からさらに乖離する見込みが生じた場合には、速やかに公表いたします。

上記の将来に対する記述、以下の業績予想数値は本資料発表日現在において当社グループが入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により変動する可能性があります。

平成29年7月期 通期業績見通し（平成28年8月1日～平成29年7月31日）

売上高	34,000百万円（前連結会計年度比 48.0%増）
営業利益	3,800百万円（前連結会計年度比 71.7%増）
経常利益	3,830百万円（前連結会計年度比 82.8%増）
親会社株主に帰属する当期純利益	2,500百万円（前連結会計年度比 93.4%増）

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第2四半期連結会計期間より、Ateam Vietnam Co.,Ltd.を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,505,060	4,415,481
受取手形及び売掛金	2,724,573	3,897,615
たな卸資産	156,013	452,429
その他	539,375	574,784
貸倒引当金	△6,181	△6,954
流動資産合計	6,918,840	9,333,355
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,043,466	948,286
その他（純額）	278,248	255,709
有形固定資産合計	1,321,715	1,203,995
無形固定資産		
投資その他の資産	622,008	793,981
投資有価証券		
投資有価証券	106,929	170,405
敷金及び保証金	453,190	549,925
その他	169,100	97,055
貸倒引当金	△4,784	△9,006
投資その他の資産合計	724,435	808,379
固定資産合計	2,668,159	2,806,357
資産合計	9,586,999	12,139,713
負債の部		
流動負債		
買掛金	192,431	414,155
短期借入金	1,166,000	828,000
未払金	2,115,955	2,666,033
未払法人税等	297,129	571,282
販売促進引当金	4,173	3,918
株式給付引当金	39,369	20,555
役員株式給付引当金	5,602	16,808
その他	306,807	510,123
流動負債合計	4,127,470	5,030,876
固定負債		
資産除去債務	387,520	389,967
固定負債合計	387,520	389,967
負債合計	4,514,990	5,420,843
純資産の部		
株主資本		
資本金	535,045	535,612
資本剰余金	508,845	509,412
利益剰余金	5,149,852	6,752,214
自己株式	△1,222,534	△1,177,659
株主資本合計	4,971,208	6,619,580
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	—	△1,510
その他の包括利益累計額合計	—	△1,510
新株予約権	100,800	100,800
純資産合計	5,072,008	6,718,869
負債純資産合計	9,586,999	12,139,713

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)
売上高	16,210,706	25,190,382
売上原価	2,576,521	3,998,568
売上総利益	13,634,184	21,191,813
販売費及び一般管理費	12,170,007	18,420,897
営業利益	1,464,177	2,770,915
営業外収益		
受取利息	535	427
投資事業組合運用益	13,566	—
為替差益	—	35,686
その他	5,715	14,219
営業外収益合計	19,818	50,333
営業外費用		
支払利息	4,447	2,446
投資事業組合運用損	—	5,096
金銭の信託運用損	93,390	—
為替差損	26,279	—
固定資産除却損	951	3,722
その他	896	471
営業外費用合計	125,965	11,736
経常利益	1,358,029	2,809,512
特別利益		
新株予約権戻入益	7,200	—
特別利益合計	7,200	—
特別損失		
減損損失	218,946	—
特別損失合計	218,946	—
税金等調整前四半期純利益	1,146,283	2,809,512
法人税等	357,822	971,055
四半期純利益	788,460	1,838,456
親会社株主に帰属する四半期純利益	788,460	1,838,456

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)
四半期純利益	788,460	1,838,456
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	—	△1,510
その他の包括利益合計	—	△1,510
四半期包括利益	788,460	1,836,946
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	788,460	1,836,946

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自平成27年8月1日至平成28年4月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エンターテインメント 事業	ライフスタイルサポ ート事業	EC事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,701,872	6,680,123	828,711	16,210,706	—	16,210,706
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	8,701,872	6,680,123	828,711	16,210,706	—	16,210,706
セグメント利益又は損 失(△)	1,590,878	1,211,396	△129,132	2,673,142	△1,208,964	1,464,177

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,208,964千円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「エンターテインメント事業」セグメントにおいて、当社が保有している固定資産のうち、その収益性が低下しているものについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては218,946千円であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年8月1日至平成29年4月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エンターテインメント 事業	ライフスタイルサポ ート事業	EC事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,177,117	9,596,128	1,417,135	25,190,382	—	25,190,382
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	14,177,117	9,596,128	1,417,135	25,190,382	—	25,190,382
セグメント利益又は損 失(△)	2,549,851	1,412,724	△146,124	3,816,451	△1,045,535	2,770,915

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,045,535千円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは迅速かつ的確な意思決定を行う体制の構築と業務の効率化を図るため、EC事業本部を新設する組織変更をいたしました。これに伴い、第1四半期連結会計期間より、従来「エンターテインメント事業」「ライフスタイルサポート事業」としていた報告セグメントの区分を、「エンターテインメント事業」「ライフスタイルサポート事業」「EC事業」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。